

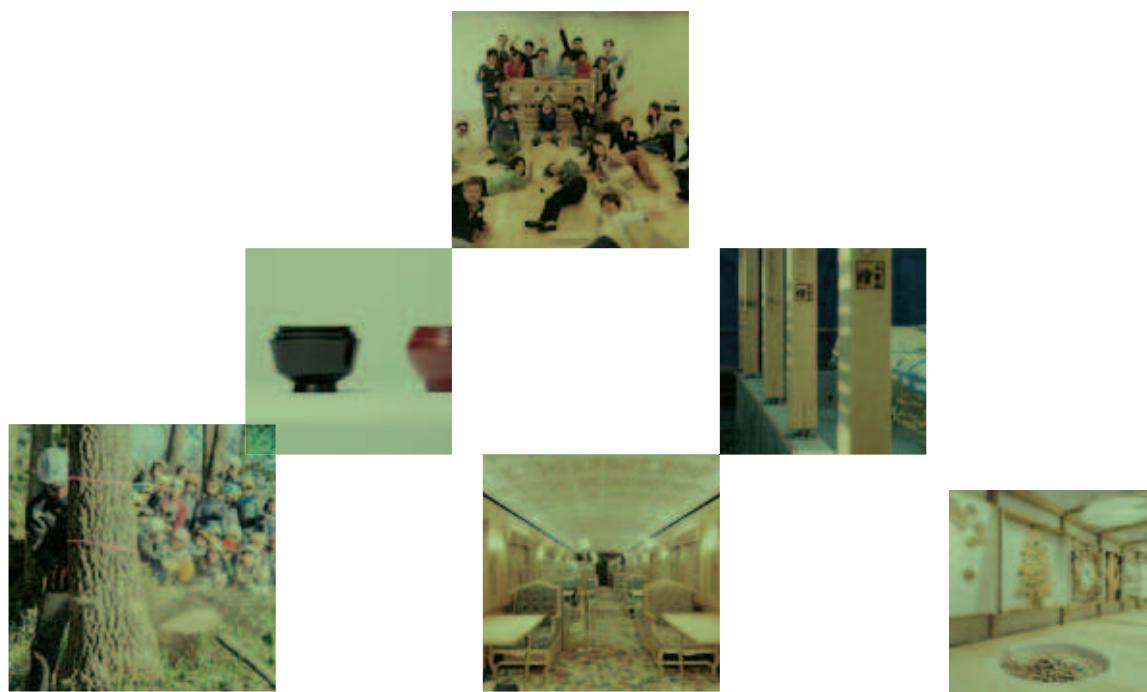
ウッドデザイン賞 2015

(新・木づかい顕彰)

受賞作品のご紹介

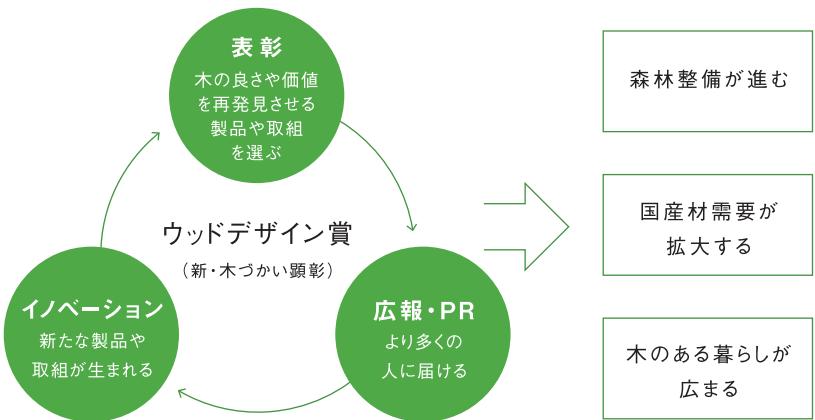


JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2015



ウッドデザイン賞とは

ウッドデザイン賞は、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの消費者視点から、優れた製品・取組等を表彰するものです。



△ ウッドデザイン賞2015(新・木づかい顕彰)実施概要

- 主催:ウッドデザイン賞運営事務局((特)活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所)
- 後援:林野庁
- 募集期間:2015年9月1日(火)～10月7日(水)

● 応募対象分野

① 建築・空間・建材・部材分野	店舗、施設、オフィス、住宅、建材、部材等
② 木製品分野	家具、インテリア、食器、日用品、雑貨、文具、おもちゃ等
③ コミュニケーション分野	ワークショップ、プロモーション、人材育成、ビジネスモデル等
④ 技術・研究分野	技術、研究・調査、試作品等

● 表彰部門

ライフスタイル デザイン部門

木を使って 暮らしの質を 高めているもの

木を使うことで機能性や利便性を高めている、新しい領域で木の活用が提案されている、消費者に木のある豊かな暮らしを提案している、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

ハートフル デザイン部門

木を使って 人の心を豊かにし、 身体を健やかにしているもの

木を使うことで快適性を高めたり、五感や感性に働きかける、リラックス効果や健康増進効果がある、作り手や担い手のストーリー性を伝えている、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

ソーシャル デザイン部門

木を使って 地域や社会を 活性化しているもの

木を使うことで地域や森林の活性化に貢献している、持続可能な森林利用の仕組みを生み出している、木材利用の意味を啓発したり、人材育成をしている、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

● 応募～発表・PRまでの主な流れ

- 応募受付期間(9月1日～10月7日) ➤ 第一次審査(書類審査) ➤ 第二次審査(現物等審査)
➤ ウッドデザイン賞発表(11月19日) ➤ 最終審査 ➤ 最優秀賞等発表・表彰(12月10日)
➤ ブックレット・展示会等でのPR

審査委員からのメッセージ



審査委員長

赤池 学 (プロジェクトデザイナー、科学技術ジャーナリスト)

消費者目線で、木材の新しい商流形成を促す多くの取組から、地域材活用に注がれた熱い思いを感じた。単なるプロダクト・アウトではなく、木材活用を促す六次産業のネットワークを構築する先進例も見受けられた。成功の鍵は域外企業やクリエイター、流通と協働し、地場にはないノウハウ習得に力を注いでいること。木材活用の新たなビジネスモデルが賞を通じて生まれていくことを、心より願っている。

★ 分野長

建築・空間・建材・部材分野



隈 研吾 (建築家、東京大学教授) ★

審査を終えて、日本の木を扱う技術、その周辺にある技術はやはりすごいと感じた。木を大切にする文化と現代の建物の需要を満たす技術を併せ持っているのは世界でも日本だけである。業種横断的に木と人をつなぐ新たな領域を拓いている、果敢なチャレンジは迫力がある。これを世界へ発信していくことで、日本経済と文化の発展に寄与すると思う。ウッドデザイン賞のさらなる発展を期待したい。



腰原 幹雄 (東京大学 生産技術研究所 教授)

木造建築の世界ではデザイン分野は未開拓である、と感じてしまう。新しい技術は生まれているが、それを素直に使っているに過ぎない。今の時代に合った木造建築をつくるためには、新しい技術に加え、新しい価値観や考え方に基づいた発想が欠かせない。そのためには、異分野やデザイナーとの連携が非常に重要である。ウッドデザイン賞を通じて、交流や成果が生まれることを期待したい。



鈴木 恵千代 (空間デザイナー)

今回、建築・空間では今後のヒントになるものもあったが、木の文明に達した日本の先代の技を超えるようなものがまだ見当たらない、ということを感じた。建材・部材では、自分が使いたいと思えるものを評価した。それは、いかに自然で、生活の中に溶け込むかという視点である。先端テクノロジーから趣きや面白さを持つ作品まで幅広く見られ、ウッドデザイン賞のこれからが楽しみである。



手塚 由比 (建築家)

個人的にも木は大好きで最近、木造建築をよく手掛けている。今回、多くの素晴らしい取組が見られ、審査をしていて楽しかった。一方で、評価の視点としては作品の特徴がわかりやすいこと、デザインが優れていることを含め、全体として完成度が高いものが選ばれたと思う。木は生き物であり、木を使うことは人間にとって自然なことである。それを伝えることが人間にに対する優しさになる。

木製品分野



益田 文和 (プロダクトデザイナー) ★

木は日本文化を支えた中心的素材であった。石油系・金属系である素材をすべて木に置き換えるようなイノベーションのデザイン、今後はそんな迫力をもった提案が欲しい。さらに、木と向き合う産地、技術者、デザイナー、流通が手を組むことで大きなムーブメントが起こる。森林資源を日本が圧倒的に価値の高い製品にする、そこに世界に通用する新領域ができると信じている。



高橋 正実 (デザイナー、コンセプター)

日本には木の文化がベースにあり、この時期にこの賞が始まるこの意義を改めて感じている。デザイナーの立場から見ると、少しの工夫でさらにデザインが向上できると思えるもの、背景やストーリーをもっと見たいと思えるものも多かった。木材を使うことで生活や社会がどのように変わっていくのか、により深く触れるといふと思う。社会の問題解決策としてのウッドデザイン賞に期待したい。



三谷 龍二 (木工デザイナー)

審査を通じて、改めてデザインの重要性を感じた。木を使うことは大事だが、ユーザーが欲しいと思うものに近づけていかないと生活中に入り込まない。その意味では今後、デザイナーと生産者、川上側の共働がより必要になると感じている。生活用品には陶磁器やガラスは多いが、木は少ない。生活にajiるものであり、かつ木である必然性、それを検証していくことが大切である。



山田 遊 (バイヤー)

木材活用の重要性は消費者側も意識しているが、あくまでも付加価値として考えている。まず顧客にとって魅力的である製品であることが大切だ。そのためには生活にもたらされる価値をコミュニケーションする必要がある。モノからコトの時代と言われるが、伝えるべきは、つくり手の思いやこだわり、機能や製法であり、それらは顧客にとって“コト”である。それが購買につながるのである。

コミュニケーション分野



日比野 克彦 (アーティスト、東京芸術大学 教授) ★

審査を終えて感じたこと。それは、木があまりに身近すぎ、誰もが木を知ったつもりでいるのではないか、木の可能性や役割を自分で制限していないか、ということである。より違う木の側面、役割、接し方で日常の中にきっとある。賞の役割は即効性のみならず、少しの可能性でも汲み上げていくこと。皆さんと一緒に自分なりの木の接し方に着目した提案を考えていければ、と思っている。



戸村 亜紀 (クリエイティブディレクター)

木は親しみある素材のため、幅広い提案が集まつたが、素材や用途を広げる都市の仕事、地域を支えながらものをつくる仕事が、それぞれ際立っている点が印象的であった。コミュニケーションとしては、テレビCMのように短時間で伝わる仕組みを工夫すると、その良さが伝わりやすいと思う。細かな数値も大事だが、売り場が顧客にどう簡潔に伝えられるかを考えると、さらに可能性は広がる。



古田 穂馬 (プロジェクトデザイナー)

素晴らしい取組もいくつもあったが、森林や建築の業界内で留まっている活動も多いと感じた。社会に伝えるという視点、異なる業界やセクター、関わっていない人をどう巻き込むかという視点が重要である。思わず動きたくなる、写真に撮りたくなる、人に伝えたくなるシンプルさ、参加のしやすさが求められている。今後も、本賞と活動が広がっていくことを願っている。



山崎 亮 (コミュニティデザイナー、東北芸術工科大学 教授)

コミュニケーション、あるいはコミュニケーションデザインを評価する際に重要な点は、どこか一つだけ秀でているだけでは響かない、ということだ。広め方はよいが、できあがったものが恰好よくなれる。あるいはその逆もある。そうではなく、木材や人、環境がつながり、どのように工夫すればその価値を知ってもらえるのかを考えた作品が選ばれている。今後も統合性の価値を意識して挑戦して欲しい。

技術・研究分野



伊香賀 俊治 (慶應義塾大学大学院 教授) ★

今回、3つの部門の中では、特にハートフルデザイン部門の研究に着目した。木の良さが我々の生理や心理にどのような影響を及ぼすのか、を研究した包括的な取り組みを高く評価した。木が人間の心理や健康に与える影響の科学的エビデンスを深めていくことで、木材利用の普及につながっていくと考えている。



相茶 正彦 (木材・バイオマス利用コンサルタント)

多くの応募があったが、木材の主用途である住宅関連への提案が特によく多かった。森林資源の活用促進を考えると、個別の提案で終わることなく、それがどう横展開、普及していくかという視点で審査を行った。木材を形のまま利用する取組も多かったが、今後はバイオマスとしての用途に対する提案も期待したい。



青木 謙治 (東京大学大学院 講師)

普段は木材や木質資源の性能評価やその利活用の研究をしており、その視点から作品を審査した。チャレンジングな提案もいくつか見られ、興味深かったが、評価としては今後、木材利用の促進に貢献するか、普及につながるか、を重視した。その説明がきちんとできているものが評価され受賞している。こうした点をさらに深めたプレゼンテーションを期待したい。



恒次 祐子 (森林総合研究所 主任研究員)

木材に関する技術・研究が全国で広く取組まれていることがわかり、楽しく審査させていただいた。技術・研究分野では科学的数据が重視されるが、人も、木材にも個性があり、個性どうしの関わりをデータにすることは難しい。こうしたデータの有用性に着目すると新たな木材利用の価値が見えてくると思われる。

最優秀賞（農林水産大臣賞）



「みんなの材木屋」発 森と暮らしを創る六次産業化モデル 株式会社西粟倉・森の学校

欲しい暮らしを自分でつくる人のために、材木のダイレクトマーケティングにより新たな市場開拓をする取組。材木規格の再定義やわかりやすい木材等級、購入者自身が手を加える半完成品のプロダクトや内装やインテリアをつくるノウハウのオープン化など、消費者視点での製品開発、木材購入ができる仕組みを構築した。森を育てた人と暮らしをつくる人を繋げてワクワクする「森と暮らしの未来」を目指す。

ウッドデザイン賞2015(新・木づかい顕彰)結果

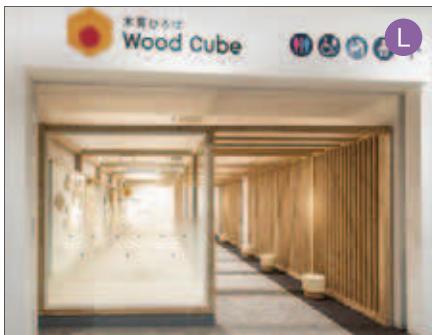
- 総応募数 822点
- 受賞数 397点
- 最優秀賞 1点 ● 優秀賞 9点 ● 奨励賞 30点

優秀賞(林野庁長官賞)

L ライフスタイル
デザイン部門

H ハートフル
デザイン部門

S ソーシャル
デザイン部門



ららぽーと海老名キッズ プレイエリア「ウッドキューブ」

大建工業株式会社、NPO法人日本グッド・トイ委員会、東京おもちゃ美術館、パワープレイス株式会社、三井不動産株式会社

親子と一緒に遊び、国産材の良さを実感できるキッズプレイエリア。ユニット化された家具型木質空間で、創造を育む木のおもちゃや造形パネルも設置。木の良さを感じ、心地よく過ごせる環境を提供している。



住まいの耐震博覧会

ナイス株式会社

メーカー、流通、住宅施工、住宅関連の事業者、自治体が参画し、木を活用した住まいづくりの提案、耐震性や省エネ性、健康性に優れた最新の家づくりなどを一般ユーザー やプロユーザーに幅広く情報発信。



連続開口設計サポート

株式会社LIXIL

流通木材で構成した開口ユニット毎に構造解析し、開口部を耐力壁とする在来木造住宅を一般ビルダーで提供可能とするシステム。窓を通して快適で明るく、風や太陽の光に満ちた空間の在来木造住宅を実現する。



JRKYUSHU SWEET TRAIN 「或る列車」

九州旅客鉄道株式会社

乗客や地域の方に愛され、地域の魅力を発信するクオリティ高い列車。車内は木材をふんだんに使用し、クラシカルな雰囲気を感じられる空間、組子の雪見障子を使用した個性的な個室空間となっている。



アベマキ学校机プロジェクト

岐阜県立森林文化アカデミー、美濃加茂市、可茂森林組合、美濃加茂市立山之上小学校、株式会社丸七ヒダ川ウッド、岐阜県森林研究所

地元の小学生が地域のアベマキをさまざまな体験で学び、学校机の天板を作成。出来上がった天板は翌年入学してくる新一年生に贈られる。里山の整備と地域材の循環、そして子どもたちの地域の自然に対する心を育む。



東京おもちゃ美術館 「ウッドスタート」

特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会

「ファーストイは地産地消の木のおもちゃから」を合言葉に、地域材を子育て支援に活用する取組。自治体で赤ちゃんが誕生したら、土地の木材を活用し、土地の職人が木製玩具を制作し、プレゼントする。



積水ハウス シャーウッド ～純国産材プレミアムモデル～

積水ハウス株式会社

木造住宅『シャーウッド』において、柱と梁を100%国産材化した商品。顧客の住まいに近い地域ブランド材を使用し、住まいへの愛着や地域材への関心を増すことを狙うとする。国産材の魅力を語れる体制も整備。



キシリ六次産業化プロジェクト

株式会社キシリ

ユーザーの要望や情報をもとに、地元林業家や製材・加工業者と積極的に連携した六次産業化の取組。「売り先が決まっている」強みから、販売計画から伐採や製材、製造を進め、消費者のニーズを即座に反映できる。



RC/S内装木質化設計マニュアル

公益財団法人木材・合板博物館

RC/S造建築物の内装木質化の「防耐火規制」の諸規程をわかりやすいマニュアルにした。インテリアデザイナー や建築士による、センスあるデザインの中で木という素材は主張されるべきと考え、需要増加に繋げる取組。

奨励賞(審査委員長賞)

L ライフスタイル
デザイン部門

H ハートフル
デザイン部門

S ソーシャル
デザイン部門



「あららしい家 校倉」

伊佐ホームズ株式会社

木の文化や伝統を大切にし、4間角の平面と4隅の自由性・可変性あるユニット構成で、多様なライフスタイルに応えるプラン提案。



やまなみ保育園

m-di空間デザイン、社会福祉法人清美会、株式会社設計工房α、株式会社スタジオゲンクマガイ、株式会社和昇建設

床や壁・家具に多種・地域の材を使用することで、「家族のような材を使う」「木にも個性がある」ことを伝える保育園のデザイン。



ケロリン木桶

内外薬品株式会社、志水木材産業株式会社、長野県

ケロリン桶を木製化することで、木が使われなくなってきた事を人々が認識し、温もりを感じるとともに、木材使用の回帰を促す。



Wood INFILL

株式会社内田洋行、鹿沼WOOD INFILL有限責任事業組合、パワープレイス株式会社、日本全国ギダラケ俱楽部、テラダザイン一級建築士事務所

木のフレームを屋内に設置し、空間木質化、設備やインテリアの取り入れを実現。柱の本数や長さで様々な空間に柔軟に対応する。



POLUS-ポラス-学生・建築デザインコンペティション

ポラス株式会社

「木の家」によるアイデアの募集、商品化を通じ、学生の自由な発想を表現する機会を設け、木造建築や住宅に対する理解を深める。



全国一斉100のありがとう風呂

株式会社熊野古道おわせ

感謝の言葉を書いたメッセージウッドを温浴施設の浴槽に浮かべるイベント。敬老の日では50~100店舗で1~2万人が参加する。



樹の壁紙 恋樹百景

株式会社ビッグウィル

折り曲げができる、つき板を使用した壁紙。間伐材や産地指定材での製造も可能で、凹凸面・入隅・出隅へも施工できる機能性。



Pendant Lamp BL-P425

ブナコ株式会社

巻きの技術によって、スタイリッシュなデザインとブナの木肌が持つ柔らかな風合い、手触りが調和した、眺めて愉しめるランプ。



KURIKOMA

株式会社ワイズ・ワイズ

被災地域の人々自身による持続可能な復興のための家具づくりプロジェクト。杉の特徴を活かした軽量の椅子ができあがった。



人間の快適性に及ぼす木材の触覚、視覚及び嗅覚刺激の効果の解明

国立研究開発法人森林総合研究所、京都大学生物材料設計学分野

木材による視覚、嗅覚、触覚刺激が人間に与える影響の評価手法を確立し、「木材の良さ」につながるデータの蓄積を進める研究。



国産木材エレキギターの木質形成と音響特性の分析研究

一般社団法人創造再生研究所、株式会社MATSUIギター工房、天竜T.S.Dライシステム共同組合、国立京都大学農学部森林科学学科

「人々の心に資する木材利用」として制作と研究・分析を行なう。木質形成並びに音響特性分析で新しい音色づくりに成功。



Zero Energy Timber House (ZETH)

金子建築工業株式会社、協同組合東濃地域木材流通センター(通称 木Keypoint(キーポイント))

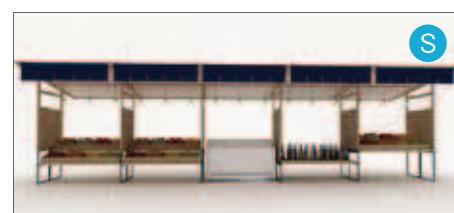
土塗り壁高断熱住宅の軸体をベースに太陽光発電等を搭載したプラス・エネルギー木造住宅。真壁仕上げでヒノキの需要拡大に貢献。



「京銀ふれあいの森」等の地域産材を使用した、銀行店舗内装木質化工事

株式会社京都銀行

森林保全活動を実施する森で、行員が伐採～搬出を行ったヒノキ間伐材を銀行各店舗の内装材として使用する、「地産地消」の取組。



旭川トドマツ屋台プロジェクト

株式会社北海道ボットラック、株式会社パワープレイス、北海道上川総合振興局、旭川市、旭川信用金庫、CONUTUREプロジェクトメンバー

未利用だったトドマツを使った、地域イベント等で展開する屋台プロジェクト。組立式4WAY、美しいデザインが特徴。



やまなし水源地ブランド

やまなし水源地ブランド推進協議会、早川町、丹波山村、道志村、公益財団法人イスカ、特定非営利活動法人木netやまなし、特定非営利活動法人道志・森づくりネットワーク、山梨県工業技術センター、株式会社イーキ、シナブテック株式会社

水源地である山間地と都市部の産官民が集い、川上から川下まで一貫した協働体制を構築し、都市のニーズに沿う木材製品を開発。



L

めぐる

株式会社明天、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン、石原木工所、丸祐製作所、吉田漆工房、塗師一富

視覚障がい者と職人のコラボレーションによって、森林資源の良さを伝えつつ、肌触りや口当たり、優しいかたちを追求した商品。



L

間伐材もく糸クロス

株式会社和紙の布

国産間伐材を使用した100%の和紙で木糸の開発に成功、素材感、高級感を備え、破れにくい。人にも環境にも優しい壁装クロス。



L

敷くだけフローリング

SMALL WOOD TOKYO

床に敷くだけ無垢の木空間にリフォームできる製品。賃貸の原状復帰も簡単。東京の森と林業に対するアクションを提供する事業。



L

木の内装と間接照明を組み合わせた寝室環境による睡眠の質改善効果と疲労軽減効果

住友林業株式会社

木の光学的特長を活かし、間接照明との組み合わせで、睡眠の質を改善し疲労を軽減させる機能性を有することが示唆された。



H

阿蘇くまもと空港 国内線ターミナル

株式会社日建設計、熊本空港ビルディング株式会社、大成建設株式会社、一般社団法人熊本県木材協会連合会、株式会社ウッディーフーム

熊本産材を内装に使い、木の暖かみに触れ香りを感じ、五感に働きかける。地方性豊かで旅客の記憶に残る空港旅客ターミナル。



H

ヘンロ小屋

歌一洋、「四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト」を支援する会

四国八十八カ所の遍路文化の再認識を目的に、横架材による空間構成・構法でつくられた簡易休憩所群。景観づくりにも寄与する。



H

100年杉のsim chair

株式会社コマ

快適性、耐久性、軽量化など求められる機能を最大限に引き出すため、最小限の木材と肉厚で構成された究極のダイニングチェア。



H

誕生木(たんじょうもく)12の樹の物語

株式会社Labo

国産の12樹種を謂れや特徴、季節感に応じて、誕生月毎に設定、木の持つ優しさや温もり、木の文化が、心に残るように提案した。



H

木レール(君のミニ列車を幻の五新鉄道で走らせよう)

NPO法人五新線再生推進会議

木質材料に親しみ、有用性を理解してもらうため、木レールを延べ2km旧鉄道跡に敷設し、手持ちのミニ列車を走らせる取組。



S

日本圧着端子製造株式会社

Atelier KISHISHITA+Man'go design、日本圧着端子製造株式会社、鹿島建設株式会社 関西支店、越井木材工業株式会社

国産材による快適な執務空間を形成しつつ、素材感や色調の変化を通して「動的な建築」を表現した都市部オフィスのプロジェクト。



S

竹中大工道具館新館

株式会社竹中工務店、株式会社乃村工藝社、公益財団法人竹中大工道具館

大工道具の展示や木の文化、ものづくりを伝える。鉄と木のハイブリッド多目的ホール等、随所に伝統的・現代的技術の粹を集めめた。



S

カーボンオフセットサイディング

ニチハ株式会社

国産材チップを原料にした窯業系サイディング。チップの固定CO₂と森林側でのCO₂吸収分をクレジットとして製品に付加した。



S

大工の手

一般社団法人わざわ座

家づくりの端材や素材を活用し、大工の手で家具をつくる。デザイナーとの協働で生活と環境を考えた持続可能な家具を目指す。



S

「セブンの森」プロジェクト

一般財団法人セブン・イレブン記念財団、株式会社セブン&アイホールディングス

全国での森づくり活動、自社開発の環境配慮型商品など、「入口から出口まで」を考え、森の成長と木材の循環を推進する社会活動。



S

丸太打設液状化対策&カーボンストック(LP-LiC)工法

飛島建設株式会社、兼松日産農林株式会社、昭和マテリアル株式会社

地中に森をつくり炭素貯蔵する、丸太による液状化対策と地球温暖化緩和策、地域材使用による地域活性化を満たす世界初の工法。

▲ 受賞後の展開について

ウッドデザイン賞の受賞作品は以下の特典、広報が受けられます。

● ウッドデザイン・マークの使用

ウッドデザイン賞を受賞した作品は、ウッドデザイン・マークの使用が認められます。

マークを表示することで受賞の成果を訴求することができます。

ウッドデザイン・マークのデザインについて



日本の豊かな森の恵みを表す三角形に、「WOOD DESIGN」(W)を重ねたイメージ。アンシンメトリー(左右非対称)に連なる造形は、暮らしを豊かに、人を健やかに、地域と社会を活性化する多彩なスケールの木づかいが生まれていく、という意味を込めています。

デザイナー:則武 弥

● 「エコプロダクト2015」における発表、表彰及び広報

最優秀賞等の発表、表彰、及びウッドデザイン賞の受賞作品の展示を「エコプロダクト2015」

(発表・表彰は2015年12月10日、展示は12月10日～12日・東京ビッグサイト)にて行います。

● 「ウッドデザイン コンセプトブック2015」の製作

ウッドデザイン賞の受賞作品を全点掲載したブックレットを製作し、受賞者とともに自治体や関連業界へ配布します。

受賞作品の広報・PRにお使いいただけます。

● 地域巡回展の実施・巡回展パッケージ

各地域で実施される展示会、交流会等で受賞作品の展示及びPRを行います。

また、ウッドデザイン賞の広報活動に御協力いただける団体、事業者向けに展示パッケージをご用意しております。

● メディア・流通小売との連携企画の推進

メディアや流通小売業と連携して、ウッドデザイン賞の趣旨を伝えるとともに、

受賞作品の掲載・露出・PRを積極的に行います。

● 公式ウェブサイト

<https://www.wooddesign.jp/>

ウッドデザイン賞に関する最新のイベント・展示情報や次回開催のお知らせなどを随時、更新しています。

● ウッドデザイン・サポート連絡会 私たちはウッドデザイン賞を応援しています。

美しい森林づくり全国推進会議

一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会

公益社団法人 国際観光施設協会

公益社団法人 日本建築士会連合会

国産材製材協会

日本合板工業組合連合会

一般社団法人 JBN

日本集成材工業協同組合

一般社団法人 日本森林学会

公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

一般社団法人 全国LVL協会

一般社団法人 日本フローリング工業会

全国森林組合連合会

一般社団法人 日本木材学会

一般社団法人 全国中小建築工事業団体連合会

一般財団法人 日本木材総合情報センター

全国天然木化粧合板工業協同組合連合会

日本木材防腐工業組合

一般社団法人 全国木材組合連合会

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

木材利用システム研究会

一般社団法人 全日本木材市場連盟

森を育む紙製飲料容器普及協議会

一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会

林業復活・地域創生を推進する国民会議

一般社団法人 日本オフィス家具協会

(五十音順)

特定非営利活動法人 日本グッド・トイ委員会